

■ グループ紹介

資源調査所の概要

(資源調査所の役割)

科学技術庁は科学技術に関する行政の総合的な推進を行うとともに、資源の総合的利用に関する方策についてもその所掌としています。その眼目は、社会経済の発展及び科学技術の進歩に伴って急激に変化する資源の利用構造、供給構造を長期的総合的観点から調査検討し、資源の総合的利用方策を打ち出すことにあります。このため、資源の総合的利用に関する基礎的調査・分析業務を行う機関として資源調査所が設置されており、また、資源の総合的利用に関する重要事項を調査審議する審議会として資源調査会が置かれています。

資源調査所は、昭和43年、当時の科学技術庁資源局を改組して発足しましたが、資源利用の最適化を図る観点から、各省庁の所掌を超えて取り組む必要のある総合的な問題、共通的な問題、境界領域の問題などを、より長期的な展望の下に資源消費の立場、地球規模での問題意識など幅広い視点からとらえ、先駆的な資源の利用方策や資源の最適利用を図るための科学技術の導入、科学技術研究開発の方向等について調査分析を実施しており、活動しています。科学技術政策担当部局及び資源調査会との密接な連携のもと資源調査所及び資源調査会の成果は、科学技術庁をはじめ関係省庁の資源政策の企画・立案に活用されています。

(調査グループの概要)

○ 第一調査グループ (国土資源)

土地、水、海域などの国土資源は、その供給に制約があり相互に深くかかわりあっているため、多様な機能を一体として考え、その保全に配慮しつつ適切な開発利用を図っていくことが重要です。

このため、土地、水、海域などの開発利用及び保全、防災などについて現状や将来の動向を把握するとともに、国土資源を一体的総合的に有効利用する観点からの対応策を明らかにするための調査・分析を行っています。

(最近の主な成果)

- 豪雨災害に対する防災情報及び予測技術に関する

調査

- 海洋空間の高度利用に関する調査
- 地下水の保全・使用に関する調査

○ 第二調査グループ (エネルギー・原材料資源)

我が国は、エネルギー消費量（1次エネルギー供給量）の約80%を海外からの石油に依存していますが、従来の石油一辺倒のエネルギー供給構造をそのまま維持することは、困難となりつつあります。また、工業原材料についても、近年の資源保有国における資源ナショナリズムの高まり、経済成長に伴う需要増加などにより、安定確保が困難となることが予想されます。

このような情勢に対応するためには、将来におけるエネルギー及び原材料の需給構造を的確に見通す一方、エネルギー源の多様化、エネルギーの合理的利用、新エネルギーの研究開発等を推進するとともに、省資源化の立場に立った工業生産のあり方、さらに将来、科学技術の進展に伴って広範な分野で利用が期待されているファインセラミックス、レアメタルなど新材料の原料の賦存量、需給動向などを知ることが必要であり、これらに関連した調査・分析を行っています。

(最近の主な成果)

- エネルギー収支からみた自然エネルギー利用技術の評価手法に関する調査
- 鉄鋼材料の腐食と防食に関する調査
- コバルトクラスト鉱床の開発利用に関する調査

○ 第三調査グループ (生物資源)

生物資源は、再生産可能な資源であり、食糧、飼料、衣料、燃料、建材など衣食住の全般にわたって利用されるとともに、自然環境を形作るものとして重要な役割を果たすなど、その機能は多種多様にわたっています。特に近年のバイオテクノロジー等先端的科学技術の発展により、生物資源の利用等に多岐にわたる影響が生じていることを踏まえ、これら先端的科学技術を有効に活用しつつ、新たな生物資源の総合的利用を図っていくための調査・分析を行っています。

(最近の主な成果)

- 四訂日本食品標準成分表のフォローアップに関する

■ グループ紹介

る調査

- 中高齢者の食生活に関する調査
- 熱帯林の開発と保全に関する調査

◦ 第四調査グループ（人的資源）

21世紀に向かって、我が国の社会・経済は様々な変化を内包しつつ大きく変貌するものと思われます。

特に、先進国の一員として国際社会への貢献を果たしていくためには、従来の導入技術依存体質から脱却し、自ら独創的な科学技術の開発を積極的に推進していく必要があります。また、国内的には、高齢化社会をむかえ、社会の活力の低下、社会保障負担の増大等、深刻な社会経済問題の発生が懸念されています。人的資源が最大の資源であるわが国にとっては、これら社会・経済の変化によって生じてくる人的資源に関する問題点を指摘するとともに、将来に向けた人的資源の育成確保に向けて適切な方策を明らかにすることが必要であり、このための調査・分析を行っています。

（最近の主な成果）

- 老化防止と高齢期の社会適応に関する調査
- 研究者の資質向上とその活用に関する調査

◦ 第五調査グループ（資源の総合的利用に関する科学技術）

資源の総合的利用を推進するには、その時代の技術水準を前提としますが、これは同時に技術開発、技術革新を要求するものです。また、個々に研究開発された技術を有効に結びつけることにより、新たな資源の利用を生み出すことも可能です。

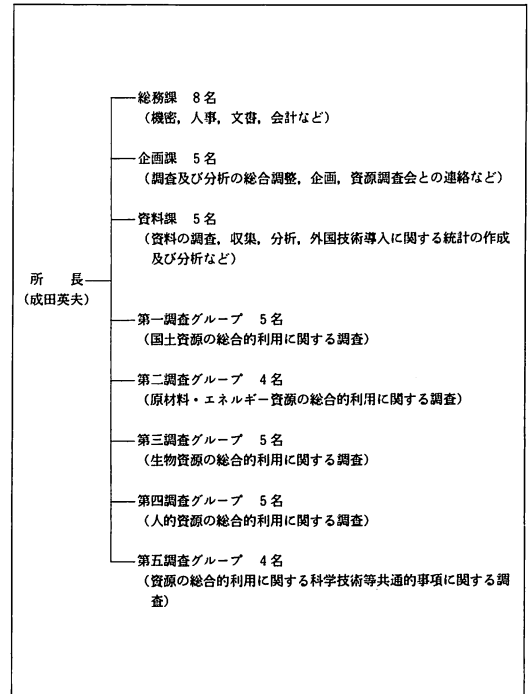
こうした観点から、科学技術や情報そのものを、各種成果を生み出す資源としてとらえ、その有効利用方

策の調査・分析を行っています。また、21世紀に向けた科学技術、資源の総合的ビジョンの検討を行っています。

（最近の主な成果）

- 研究成果の取扱いとその有効利用に関する調査
- 先端技術の動向に関する調査

（組 織）



所在地：〒100 東京都千代田区霞ヶ関3-1-1

中央合同庁舎第4号館

（文責：企画課）

